

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 219 号	2019年10月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

—9月28日（土）会員11名および観察隊1家族（2名）、計13名が参加し、観察路・法面等の草刈り、蓮田の除草、資材置き場の整頓の作業を実施しました。

—10月6日（日）会員10名が参加し、駐車場の草刈り、稲刈り準備（はぜかけに用いる竹の準備）、蓮田の除草、資材置き場の整理、除去草の処理の作業を実施しました。

—10月19日（土）天気が少し雨から晴れに変わる中、収穫祭の稲刈りを行いました。田んぼが少しぬかるんで子供たちも悪戦苦闘していましたが、手際よく手刈りし、束ねてハゼ掛けをしてくれました。稲刈りの後は、刈未てとして豚汁とお結びを食べてもらいました。参加者は、親子自然観察隊20名（親9名、子11名）、二俣瀬子ども会26名（親10名、子16名）、二俣瀬小学校先生3名、市関係者2名、外来者2名、会員17名の合計70名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

—10月23・24日（水・木）稲の脱穀と粃摺り

—11月3日（日）維持活動（草刈り、駐車場草刈り）

—11月16日（土）維持活動（エコアップ）

—11月23日（土）親子自然観察隊（里山の暮らし）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「活性化と障害」（原田満洲夫 記）

「二俣瀬まちづくりサークル」代表世話人原田兼任は今年の年間行事外の仕事が入った。ビオトープ水車の修復の助成事業と同様ビオトープ横を通過する御嶽登山道案内板を製作し市道入り口の地藏尊横に建立した。

ビオトープまでの距離・昭和山遊ロードで紹介した「トト滝」・「カカ滝」・「童滝」・「寄合滝」・「昭和山入口」等他4か所の方向と距離を明示して地域の活性化を図っている。

この登山道（遊ロード）は市道であるが、せっかく活性化にと案内板を設置したにもかかわらず、半分以後の新幹線ガード下を潜り抜けると、遊ロードは草木が生い繁り中々通りにくい状況にある。100m行くと宇部市指定樹木 ナツツバキの大木も名ばかりになる恐れがある。普通の人ならこの先いけるのかな？と思う。

県の事業と市の道路管理がマッチングしていない。選んだ我々が調査不足か？

5. 親子自然観察隊 「 稲作体験・稲刈り 」 （菅 哲郎 記）

稲の生育に合わせ今年の稲刈りは10月14日（土）に行いました。晴天が続いたのに前日の13日は一日雨、おかげで地面がぬかるみ、せっかくの稲刈り機が使えず、今年も全員による手刈りで行いました。

小型のバインダーは刈り取りと稲束を縛ってくれますし、大型のコンバインは刈り取りと脱穀を一度に済ませます、私たち全員（およそ50人）が1時間半かかる作業を、わずか15分～20分ほどで刈り取ってくれます。しかし、維持費がかかり、狭い水田ではお金がかかり、儲けになりません。せっかく準備していただいたのに残念でした。小型のバインダーは10mほどデモンストレーションできましたが、この機械も刈り取った稲束を結束できませんで、途中で中止しました、残念でしたね。

昔の人たちは、泥だらけになりながら、手刈りでの作業を行ってきました。お米を作ることは大変な作業ですね。しかし、隊員たちはよく働いたと思います、足元が悪く泥だらけになりながら、稲を刈り取り、束を作り、ハゼかけを行い、1時間半で済ませました。本当にご苦労様でした。今年は初心者が案外多かったようでしたが、それにもかかわらず早く稲刈りが終わり、隊長としては内心驚いています。上級生や経験者が上達したのかもしれませんがね。

前日の雨にもかかわらず出席者も多く、観察隊隊員、二俣瀬子供会、小学校より校長先生他2名、学生・一般参加2名、ビオトープ会員を合わせ70名の出席でした。

事務局長が多忙で、今年は全員の記念撮影ができず、申し訳ありませんでしたが、「刈りみて」で豚汁とおにぎりをいただき、事故もなく楽しく稲刈りが行われたと思っています。

今年は隊員と子供会のお子達に、「自己紹介」という急なイベントを企画しました。みんなの前で発言するということで、自分という人格を認めてもらったり、人から注目されるということで、子供の人格形成に役立つのではないかと思います。少しでもこのような試みから、友達ができればうれしいことだと思います。基本的に子供たちは親や友達に自分を認めてもらいたいと思っているはずですので。

中にはやはり恥ずかしがり、最初は逃げ回っていた子でも、最後にはやはり友達と同じように名前、出身学校を発言してくれました、大人のイジメになってはいけませんが、大丈夫だと確信します。

今年は大型、小型の稲刈り機を準備していただきましたが、直前の雨のため使えず大変残念でした。準備していただいた原田会長ほか会員の皆さん、それに、おにぎりとおにぎりの準備してくれた会員女子部の皆さん、ありがとうございました。



刈りの開始



稲刈りの完了（ハゼ掛けの様子）



刈りみて (いただきます)



食事の様子

親子自然観察隊の感想

★有吉遼

稲を刈っていると、ヘビやイナゴ、くも、カエルなどに出会いました。刈る前には全く気付かなかったので、こんなにたくさんの生き物がいてビックリしました。田んぼがたくさんの生き物の住みかになっていることがよくわかりました。

★有吉(母)

昨年までは目の前の作業をこなすことで精一杯でしたが、今年はだいぶ手際がよくなっていて、楽しかったです。周りの様子も見れて、田んぼ一枚のお米を刈るのにこれだけの人が必要だったのだとお米作りの大変さを感じました。最近はお米を食べないなどという人もいますが、簡単に口にできるものではないことを知ってほしいなと思いました。

★溝邊寛人

稲刈りはたくさんの稲を機械で刈るのはあっという間なのに、手で狩るのはとても大変だなと思いました。

★ 溝邊義人

初めは難しいなと思ったけど、かまの使い方を教えてもらったおかげでたくさん稲をかることができて、楽しかったです！

★ 溝邊睦

稲刈りのお手伝い楽しかったです。豚汁のお手伝いもしたかったです。

★ 溝邊 (母)

手慣れた様子で稲刈りをどんどんしていく二俣瀬の子供達に感動しました！ 次男は少しでも多く稲刈りをしたら、みんなが早く終わるかな？と頑張っていたり、妹は稲を束ねる為のわらを少しずつ渡してくれたり束ねた稲を運んでくれたり、子供の成長をととても感じる事が出来ました。稲刈りの日を迎えたのも皆さんのおかげだなと感謝です。いつもありがとうございます。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （ 管 哲郎 記）

(44) スジボソヤマキチョウ *Gonepteryx aspasia* (シロチョウ科)

皆さんには全くなじみのないチョウだと思われます。本州、四国、九州に分布しますが、山口県では島根県や広島県近くの森林部に見られます、しかしなかなかお目にかかれませんが、7月上旬ごろに羽化しますが越冬し4月ごろより5月上旬ごろまで見られます、越冬個体は体色も枯れ葉色になりボロボロになります。食草はクロウメモドキですが春にはアザミやヒメジョオンなどの花で吸蜜したり、道路に降りて吸水するようです。春の個体を捜すのは枯れ葉色をしておりとても難しく、追い立て飛び立つのを待つしかありません。



羽化直後の個体 7月撮影



越冬後の個体 4月撮影

参考・引用文献

須田真一・永幡嘉之 他、2012. フィールドガイド日本のチョウ. 327pp. 日本チョウ類保全協会. 東京.

工藤誠也、2018. 美しい日本の蝶図鑑. 335pp. (株) ナツメ社. 東京.

7. 会よりの連絡事項

- 1) 10月24日は雨天のため23日に脱穀を行い、そのまま西村会員に方に搬入し乾燥に入り、粳摺りをします。

8. 編集後記 （ 原谷 一誠 記 ）

2000年9月28日(木)夕方、二俣瀬ふれあいセンターに、市民ボランティア38名と関係三団体(山口県、宇部市、厚東川水系・森・川・海・水環境ネットワーク協議会)が参加して、「(仮称)ビオトープ二俣瀬創造の会」の発会式が行われた。その後、全体会議5回、班会議3回の協議を行い、ビオトープのイメージ図作成など計画を進め、会の名称も「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」となった。そして会も来年9月で20周年を迎えることとなった。これも関係団体の支援やボランティアの活動により、ビオトープを維持してきたことで、自然環境観察のフィールドを提供できていると感じています。故障した水車も修復されることとなり、ますます多くの人に来て楽しんでもらえるように、これからも維持活動を続けていきますので、ボランティアの希望者が増えてほしいと願っています。